

# 令和3年度私立短期大学就職担当者研修会におけるグループ討議の報告

## 〈企業グループ〉

### 第1グループ（13名）

担当：北川 裕樹 委員

#### I 共通テーマ

##### 「コロナ禍における就職・進路指導の在り方」

事前アンケートの中で討議希望内容を調査した結果、現状でキャリア支援をする中で、課題や疑問などについて、グループで情報交換や意見交換を行い、他学における取り組みや現状を知り、今後の学生支援に役立てることを目標とした。

#### II 討議項目と内容

1. 学内立入禁止の場合、就職・進路指導の方法
2. 非接触を推進しているが、そのような状況下での指導方法
3. リモート授業の増加により、学生の情報収集や教職員間の連携も厳しい
4. 就職活動のオンライン化に対応できない学生への支援
5. 求人減の業界(小売り、外食、ブライダル、観光等)から別業種・職種変更への支援
6. SNSでの就職活動においてハラスメント防止で工夫していることはあるか
7. コロナ禍における効果的な就職・進路指導について

参加者から事前アンケートの結果、上記項目で情報交換希望があり、各大学における取り組みや状況を説明した。課題はコロナ禍での支援が悩みであり、そうした中でも昨年度よりは工夫しているという意見もあり参考になったとの声もあった。

一方で、地域により新型コロナウイルスの感染状況が異なり、学生支援状況も温度差がうかがわれた。

#### III 就職支援を行う上で抱えている課題、問題点等

1. 学内でコロナの感染者が発見され、全学入構禁止になった場合の支援方法
2. コミュニケーション能力等の問題で就職活動が難しい学生への支援
3. 文章作成能力不足の学生への指導方法
4. 就職活動を開始しない学生へのモチベーションアップ方法
5. ホスピタリティ産業(ホテル、ブライダル等)の就職状況と企業へのアプローチ方法
6. 効果的な就職支援講座、プログラムの実施について

7.1 学年時からの就職支援について

8. 学生面談が対面から、オンライン・対面を併用したハイブリッド方式になったが、面談の利用者が減少している

以上のような課題・問題点があり、各内容について質問のあった大学が説明し、それぞれ討議した。また、回答できないもしくは回答の少ない事項については、私が補足し課題解決につながるよう進行した。

今回オンラインで討議したが、参加者にきちんと伝えたいことが伝わっているのかが不安であった。

#### IV 成果と課題

- ・ 過去はかなりの時間をかけてグループ討議を実施していたが、今回はオンラインで数時間での実施となり、参加者の満足度不足があったのではないかと。
- ・ コロナ禍の対応は、各校とも苦慮している問題が類似しており、他大学の取り組み事例が参考になったとの回答があった。
- ・ 現在就職支援を行う上で抱えている課題、問題点は過去からの課題とほぼ同様であり、問題、課題解決には時間を要している。
- ・ 学生に対しての支援も同じだが、討議は対面での討議が重要だと感じた。

## 第2グループ（14名）

担当： 吉田 和代 委員  
若月 博延 委員

企業②グループは14短大14名により、事前アンケートの回答まとめを基礎資料とし討議を行いました。主な内容は以下の通りです。

### 〈新型コロナによる環境の変化〉

- ・新型コロナの影響により、エントリー先の採用試験が中止となり、進路変更
- ・会社訪問する学生のPCRや抗体検査の必然性に企業はどの程度要望しているか  
⇒実習の際はPCR検査を受けると言われる（保育系は求められることが多い）  
職域ワクチン接種を行う  
一般企業の場合は県外にはほとんど出ない
- ・学内でのWi-Fi環境、機材のレンタル等の希望にどの程度支援するか
- ・就職活動のオンライン化に伴い、パソコン等備品の貸出が必要な状況であるが、環境の整備が整っていない  
⇒一部対応用の教室を使った  
かなり整備を行い学生が空き時間に使用できる場所を提供した  
1年生にはパソコンを配布している
- ・学生同士の横の繋がり希薄化で、就職活動の機運醸成が難しい点
- ・学年の上下関係による情報伝達が不足等、指導の在り方について  
⇒先輩たちがどのように活動したかわからない  
オンラインによる画面だとい意味で雑談ができない  
授業の中で内定者座談会を実施した（寮併設のため活用）  
卒業生を業界ごとにピックアップし学内に来てもらい学生はオンラインで実施

### 〈学内就職行事について〉

- ・学内での内定者向けセミナーについて  
⇒授業時間を活用させてもらう  
短大生は内定が遅いため対応に苦慮  
学校推薦に手が回らない
- ・学内企業説明会の「参加企業」募集方法について。  
⇒完全オンライン化・・・95%の出席あり  
参加企業の募集方法について→毎年決まっている・企業から申し出があったところ・内定企業・業者に入ってもらう 等

## 《学生対応》

- ・就職活動の機運醸成。
- ・意欲（職業観・就職活動）の二極化
- ・方向性が決まらない学生への対応について
  - ⇒キャリアカウンセラーの活用
  - 教職員の連携による支援（相談・添削・全員面談 等）
  - SNS の活用（学生はチャットには反応する）
  - 新卒応援ハローワークの活用
- ・各短大での個別就職支援の方法について。
  - ⇒職員による進路追跡（1人十数名を責任をもって確認する）
- ・留学生の就職活動について。
  - ⇒この状況で応募先が無く苦戦

## 《進路変更に関する支援》

- ・求人が激減した観光分野を志望していた学生の進路変更の働きかけ
- ・事務職求人に変わる具体的な職種の提案
- ・事務職以外に職種選択の幅を増やすことの働きかけ
- ・特定の職種で活動を行っており内定に至らない
  - ⇒事務職希望者多数への対応
  - 職種への理解力不足への対応
  - 公務員から一般職への変更希望増
  - 企業への大学院受験率が上がり、短大が苦戦している
  - 求人減少により進路変更を考える学生増
  - 教育の中での支援拡大
  - 適性テストの結果を踏まえ支援の方向を考える

## 《未内定、意識低い学生への対応》

- ・未内定者、就職意識が低い学生への支援
- ・学生への情報提供について
- ・コミュニケーションに不安を抱える学生への支援
  - ⇒アドバイザー制度で対応（スプレッドシートの活用）
  - 教員と職員との情報共有
  - グーグルフォームの活用（学生はメールや電話よりハードルが低いと感じる）

## 《就職支援》

- キャリアセンターの利用者増加の方法
- コロナ禍だからこそ、新しく取り組まれた就職支援（Zoom 等以外）の例
  - ⇒ラインアカウントを取って友達登録させている→重要な内容はそこから発信
  - 就職課への登録をその場でしてもらう
  - 化粧品会社とコラボした就活メイク講座の実施
  - 教員と連携しての全学年対象の合説ツアーの実施
- 短大求人への扱い方
  - ⇒紙ベース、キャリアタス UC 及び求人ナビ J ネットの活用

## 第3グループ（14名）

担当：橋本 聡恵 委員  
相川 賢士 委員

### 1. 分科会の目標

コロナ禍での就職活動で主流になりつつあるオンラインによる企業説明会や採用面接などの対策や支援方法、その他取組等各グループで情報共有し、この分科会で得た成果と構築した人脈を活かして、各短期大学の業務改善・改革に効果的・効率的に役立てられる一助となる。

### 2. 分科会スケジュールとテーマ

- (1) 14名の参加者をより深い内容の意見交換を行うために2つのグループに分け、委員がそれぞれのグループの進行を担当した。
- (2) 「令和2年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」の参加校から頂いた回答をまとめた資料を参加者に事前に送付し、共有した。その上で、更に意見交換したい項目を委員が7つ設定し、その7つの項目を中心にグループ討議を行った。
- (3) 最終的には2つのグループを統合し、それぞれでどのような討議がなされたのかについて報告をし、第3グループ全体での情報共有を行った。

### 3. 分科会研修の成果と課題

分科会研修の成果として、討議希望項目別にグループで話し合った結果、参考となる実施事例を全員で共有する事が出来た。

＜今年度の共通テーマ「コロナ禍における就職・進路指導のあり方」について＞

#### ① 就職指導・進路指導の重要なポイントは何か

例年以上に学生の主体性を喚起しながら、個々の学生への状況に合わせた丁寧な支援を意識している事例が多かった。又、学生の活動状況の把握については、月1回のアンケートを実施するなどして、支援に役立っている事例もあった。

#### ② オンラインでの就職ガイダンス、模擬面接、企業セミナー、企業説明会、個別面談の具体的な実施事例、又、学生の講座満足度の確認方法とその結果について

オンラインで実施することによって、企業と学生とのマッチングの苦労や、オンラインに対して慣れている学生とそうではない学生の二極化などの課題を抱える事例があった。中には入学時にiPadを全学生に支給し、授業アンケートもアプリから回収する等、ICT化が進んでいる事例もあった。

アンケートの集計はGoogle Formを活用したりする等、オンラインによる業務の効率化も進んでいる。

### ③ オンラインを使用した教職連携体制について具体的な事例

教職連携体制は構築されていて、学内ポータルサイトや学生カルテの共有、学生就活データの送付等工夫して連携しているが、仕組みが整っていても利用度が低いなどの課題を抱えている事例もあり。

## <現在、就職支援を行う上で抱えている課題、問題点等について>

### ① 就職意欲や意識の向上のために取り組んでいる具体的な事例

どの学校もインターンシップを意識向上の機会と捉えており、事前授業（マナーなど）と事後授業（振り返り）を充実させることでその効果が得られている。又、短大によっては学校がインターン先を紹介し、単位認定している事例もあった。

他にも卒業生を招聘やお勧め企業一覧作成、コロナ禍で現在見送りにはなっているが、企業訪問バスツアーなどで学生の意識向上を工夫している事例もあった。

### ② 合理的配慮が必要な学生への収支支援の具体的な事例

各短大の専門機関において専門の担当者を配置し対応しており、必要であれば外部機関と連携し支援をしている。但し、グレーゾーンの学生への支援についてはどの短大も苦慮しており、本人や保護者の意識によっては慎重な対応が必要な場合もある。

又、学生の希望に沿いながら卒業前に進路の方向性を決めるための支援が必要だと考えるが、どこまで自分たちが支援すべきなのか答えを出せないといった声もあった。

### ③ 学生への求人や就職に関する情報の伝達方法に関する具体的な事例

学生に必要な情報をGoogleやTeams、LINEを利用して掲示する方法が多かったが、掲示しても学生が自分で情報を取りに来ない事が課題となっている。又、学生個々に合わせた情報を電話掛けや窓口呼び出したりする等、直接連絡するなど工夫している事例あり。

### ④ その他他大学に聞きたいこと

今後ますます必要となってくる学生の就職に対する「自主性」についての意見交換がなされたが、小さな事でも成長を褒めることや興味のある事から視野を広げるなど、各短大で苦労しながらも工夫している事例が報告された。又、その他参考となる取り組みについて、ガイダンスの出席率を上げるために、証明写真を無料で撮影する取り組みをしたところ参加率が上がったとの報告あり。他にも、学生に配布する就職用手帳の広告欄に協賛頂いた企業を掲載している。企業にとっても、学生からの認知度に繋がるのでメリットがあるとのことだった。

#### 4. 今回の研修で得たもの（成果）と今後の課題

短期大学を取り巻く環境が厳しくなっている中で、コロナ禍における就職支援をテーマに討議を行ったが、どの短大も共通の課題が多かったが、その中でもオンラインや対面支援を使い分けながら、学生に寄り添った丁寧な就職支援を行っている事が共有出来た。コロナ禍が落ち着いていくとしても対面に戻していくのではなく、オンラインを活用した支援はむしろ充実させる必要があると感じた。オンラインは、「学生にお金と時間を使わせない」支援となり、それは学校側にとってもメリットがある。気をつけることは、「伝わりにくさ」を認識し、どうすれば伝わるのかを考えながら支援していかなければいけないことである。

## 第4グループ（13名）

担当：鈴木あ久利 委員  
有本 昌剛 委員

### 1. 運営目標

各短大の取り組みの共有・意見交換を行い、各短大にとってプラスになる事例やヒントを持ち帰り、今後の就職支援やキャリア教育に活かすことを目標とした。

### 2. 討議項目

共通テーマの「コロナ禍における就職・進路指導のあり方」、グループテーマ「現在、就職支援を行う上で抱えている課題、問題点等」「他大学に聞いておきたいこと、また、情報交換したい内容」について全体討議。

### 3. 進め方

(1) 事前に回答いただいたアンケートの集計結果を、8月24日にメンバーへメール配信、研修会実施前に各短大が希望する情報交換の内容を共有。(2) アイスブレイクを兼ねて自己紹介・学校紹介及びグループ討議に期待すること、アンケートに書かなかったが聞きたいことについて一人3分程度で発言。(3) 共通テーマの「コロナ禍における就職・進路指導のあり方」、グループテーマ「現在、就職支援を行う上で抱えている課題、問題点等」「他大学に聞いておきたいこと、また、情報交換したい内容」について全員で討議。

### 4. 討議内容

共通・グループテーマに沿って情報交換を行った。「コロナ禍における就職・進路指導のあり方」および「現在、就職支援を行う上で抱えている課題、問題点等」は同時に討議を行い、ここでは「学生へのアプローチのあり方」と「オンラインに関する支援・指導のあり方」に分けて討議を行った。

「学生へのアプローチのあり方に関するもの」では、コロナ禍で影響を大きく受けた業界しかみていなかった学生への指導方法、一定の業界・第一志望だけでなく広く業界を見る方法、無反応な学生への対応について情報交換を行った。各校で行っている支援については、学生に情報提供を行う、学生全員と面談を行い学生のニーズを確認し支援を行う、学生の支援を教職協働で行う、保護者も巻き込めるよう葉書で状況を確認するなど手厚い支援を行っていることが報告された。

「オンラインに関する支援・指導のあり方」においては、オンラインで相談等を予約制にする場合、1人当たりの時間が長くなるというデメリットも紹介されたが、予約制に

しないで成功した例も紹介された。オンラインになり進路に関するアンケートの提出状況が良くなった一方、LINE 等のツールの活用は学校での制限等がありなかなか活用がされていないこと、電話やメールに反応しない学生への指導についての意見交換を行い、各校それぞれの対策を共有することができた。

最後に「他大学に聞いておきたいこと」では、1)「求人票の入手の仕方」について、業者の求人検索システムを活用している短大と求人票を紙媒体で管理している短大で意見交換が行われた。2)現在の各校の内定率については、3割強～8割で、内定率の高い学校では合同企業説明会を年に6回行い、回を重ねるたびに内定率が上がること的事例報告があった。3)「留学生の就職」では、日本語能力を上げる指導と、中小企業まで広く見ることを指導している。留学生を受け入れても日本での就職は難しいことが問題となっていることが報告された。4)教員と職員間の進路指導のあり方や指導の温度差においてずれが生じているが、職員から教員にはアドバイスがしづらいとの報告も多くあった。また、教員の属人性で行うのではなく、教員と職員が連携して進路・就職指導することが望ましいことを共有した。5)オンラインツールが多くある中でどのような指導をしているかという点では、学生に寄り添うことも大事だが、学生自身で調べる力が身につくように、情報の授業での指導をお願いしたという事例が報告された。6)キャリア支援をする職員の自己研鑽についての質問に、就職支援は正解がないので学生支援が難しいが常に学びを深めるようにしていること、および関連の書籍の紹介がされた。

## 5. まとめ

コロナ禍において各学校がそれぞれ学科の特徴をよく見極め工夫をして支援等を行っていること、コロナ前からの問題（早期化・教職協働・学生の就職活動への意識の二極化他）も引き続き解決が出来ていないことを確認した。3時間では時間が足りなかったが、この研修会での学びを持ち帰り、就職・キャリア支援に活かしていくこと、またこれを機に同じグループだった方同士、今後困ったことなどを相談しあうことを確認した。

## 第5グループ（14名）

担当：中島 和成 委員  
谷村 勇一 委員

### I 運営目標

就職担当者がコロナ禍でキャリア支援をする中で、感じている課題や疑問などについて、グループで情報交換や意見交換を行い、問題解決に繋げる。また、他学におけるキャリア支援の取り組みや現状を知り、今後のキャリア支援に役立てることを目標とした。

### II 討議項目

事前に設問1～3のアンケートを実施した。

問1 今年度の共通テーマ「コロナ禍における就職・進路指導のあり方」について、特に討議したい内容

問2 現在、就職支援を行う上で抱えている課題、問題点等

問3 他大学に聞いてみたいこと

### III 討議の進め方

- (1) 事前に回答いただいたアンケート集計結果を基に、8月23日にメンバーへメール配信、研修会実施前に各短大の情報交換の内容を共有。
- (2) 共通テーマの「コロナ禍における就職・進路指導のあり方」「現在、就職支援を行う上で抱えている課題、問題点等」「他大学に聞いてみたいこと」について全体で討議

### IV 討議内容

問1 今年度の共通テーマ「コロナ禍における就職・進路指導のあり方」について

- ・コロナ禍での就職先が対面を有する業務において、求人の減少・選考の延期や中止となり進路選択の幅が狭まり就職支援に苦労した事例が多く出された。
- ・オンラインでの企業選考、学生支援も多いが、昨年度より対面での面接や学生支援を行う機会が増えた意見が多く出された。
- ・就職支援において、様々な業界・職種におけるWEB開催での企業説明会の紹介、短大からのお勧め求人の配信、志望する働き方・業界に関連する仕事内容のつながりなど、進路の裾野を広げる工夫を行っている。
- ・コロナ禍により、従来の対面支援ができないため、学生面談の予約やイベントの情報提供、学生との連絡等を含めJ-NETやLINE、大学独自システム等の活用で紹介があった。

- ・多様な職種、仕事の紹介や卒業生連携の支援によりキャリア形成につなげている。

## 問2 現在、就職支援を行う上で抱えている課題、問題点等

- ・早期から活動する学生と就活が進まない学生と2極化しており、就職支援における支援方法や就活が進まない学生との連絡方法に苦慮する場面が多くなっている。
- ・就活において学生の志向も安定性、事務職等への割合が高くなっている。又、特定業界や対面重視の企業からの求人数が減少した。
- ・個別事情が多様にわたり、支援も一人ひとり個別支援が多くなり、職員への負荷も増えている。

## 問3 他大学に聞いてみたいこと

次のような内容について意見効果が行われた。

- ・内定辞退の期限や資格を活かす他職種のマッチングの方法について
- ・コロナ禍におけるイベントの実態については、対面からオンラインへ、宿泊を伴うイベントは、学内で時間短縮での実施、ガイダンスの実施などについて
- ・四大女子学生との事務職採用における競争が激化している。
- ・SNSにおける情報発信のリスクや利便性について
- ・学生のやる気を引き出す（意識醸成）、モチベーションアップ効果について様々な施策においてのツールや広報、参加グッズ、事前の動画資料提供、魅力的な求人開拓などについて。
- ・専門職以外の就職についての支援や指導について